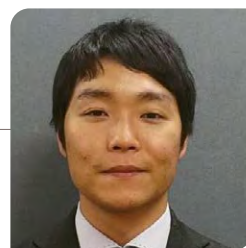


日本の酪農乳業を応援する 「プラスワンプロジェクト」へ ご協力をお願いします!

農林水産省 生産局 畜産部 牛乳乳製品課
乳業第1係長 下村 義雄



はじめに

2019年末から発生が確認され、2020年10月現在においても世界各国で感染が続いている新型コロナウイルス感染症は、日本社会に大きな影響を与えており、我が国の酪農乳業も例に漏れず影響を受けました。

農林水産省としても関係者と一体となり様々な対策を行いましたが、本稿では、その対策の一つである「プラスワンプロジェクト」についてご紹介させていただきます。

新型コロナウイルス感染症による 日本の酪農乳業への影響

2020年1月に日本でも最初の新型コロナウイルス感染症の発生が確認され、その後、感染が拡大していく中、2月27日に開催された政府の新型コロナウイルス感染症対策本部において、感染リスクに予め備える観点から小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における全国一斉の臨時休業を要請する方針が内閣総理大臣から示され、3月2日から春期休業の開始までの間、全国一斉の臨時休業を行うこととなりました。

その結果、学校給食も休止となり、学校給食に提供される予定であった牛乳のキャンセルが発生しました。また、この学校給食用牛乳のキャンセルに加え、外出自粛や商業施設の休業により業務用牛乳乳製品の需要が減退し、牛乳乳製品全体の需要が大きく落ち込むこととなりました。

その後も感染拡大は続き、4月7日の緊急事態宣言(対象;7都府県、16日には全国まで対象を拡大)及びそれに伴う休業要請を境に、カフェやレストラン、百貨店においてスイーツ等に使用されていた業務用牛乳乳製品の需要が一層落ち込みました。緊急事態宣言が全面解除された5月25日までの約1ヶ月半の間、こうした状況が続き、他の農産品と同様、牛乳乳製品の需要も大きく減退しました。

「プラスワンプロジェクト」 緊急スタート!

以上のように新型コロナウイルス感染症により牛乳乳製品の需要が減退する中、生乳を脱脂粉乳やチーズといった保存の利く乳製品へと加工することにより行き場を失う生乳が生じないよう、生産者団体と乳業メーカー、農林水産省が一体となって様々な対策を行いました。

しかしながら、緊急事態宣言の対象地域の拡大による牛乳乳製品の需要の減退に加え、牛が出産のピークを迎える6月上旬までは生乳生産量が増加していくことから、脱脂粉乳やチーズ等の乳製品を製造する工場をフル稼働しても、行き場を失った生乳を廃棄せざるを得ない状況に陥るおそれがありました(図1)。

乳牛は毎日生乳を生産することから、病気を防ぐために毎日搾乳し続ける必要があります。工場では生産される産物と違って、需要に応じたコントロールはできません。このことから、生乳を廃棄せざるを得ない状況になれば、食品ロスにつ

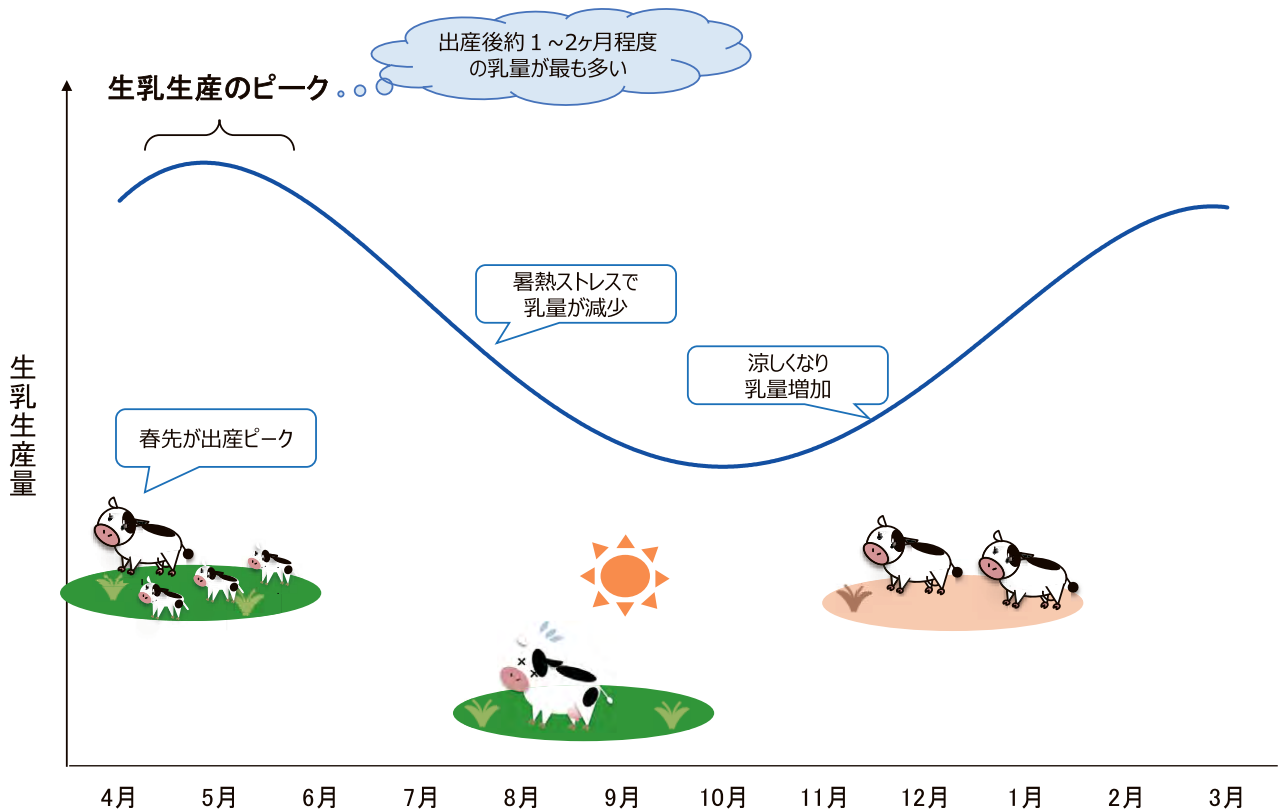


図1 牛の生乳生産量の季節変動

なだけでなく、最悪の場合、乳牛の数を減らさなくてはならなくなるようなこともあります。

こうした状況の中、農林水産省としては、6月までの生乳生産のピークを乗り越えることがで

ければ、生乳の廃棄を回避することができると考え、4月21日から、日本の牛乳を救う「プラスワンプロジェクト」を緊急スタートしました。

プラスワンプロジェクトは、消費者の皆様にお買い物の際に牛乳やヨーグルトを普段より1



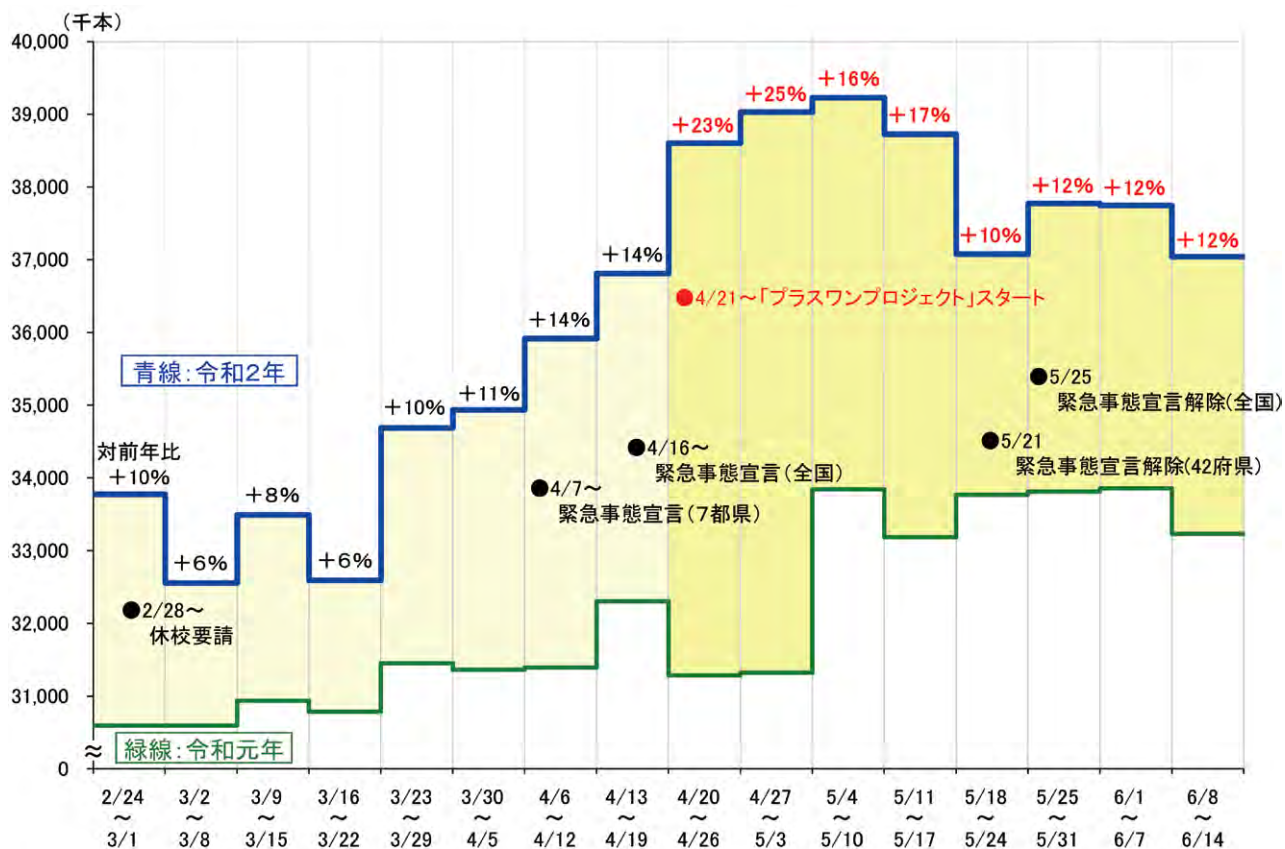
写真1 農林水産省のYouTubeチャンネルに投稿された動画



写真2 人気YouTuber はるあんさん とのコラボ動画

本、特に育ち盛りの方は更にもう1パック多く購入いただくことが、酪農家への応援につながるということを呼びかけ、牛乳乳製品の消費にご協力をお願いするというものです。このプロ

ジェクトでは、農林水産省牛乳乳製品課の職員がウシの着ぐるみを着て、協力をお願いを呼びかける動画をYouTubeに投稿しましたが、この動画を各種メディアに取り上げていただくなど、



出典：一般社団法人Jミルク「牛乳類の販売速報」

図2 プラスワンプロジェクト開始後の牛乳類販売状況の推移

大きな反響を呼びました(写真1)。

当省としても、各種メディアに取り上げていただいたことをチャンスと捉え、人気YouTuberとのコラボ動画の作成や、ニュース番組、バラエティー番組へ出演するなど、積極的に広報活動を行いました(写真2)。

また、このプラスワンプロジェクトを皮切りに、北海道で「SOS！牛乳チャレンジ」や牛乳を贈る助け合いプロジェクト「#COWエール」などの牛乳乳製品の消費拡大の取組が次々とスタートしました。

これらの取組は、SNS等を通じて広く拡散され、皆様にたくさんの関心をよせていただきました。この結果、多くの皆様にご協力いただき、プロジェクト開始から6月上旬までの間、家庭での牛乳消費が約2割増加し、行き場のない生乳を発生させることなく、また、乳牛を減らすことなく、生乳生産のピークを乗り切ることができました(図2)。ご協力いただいた方に深く感謝申し上げます。

プラスワンプロジェクト 「セカンドステージ」へ！

一方で、その間、牛乳乳製品の需要減退に対応するため、脱脂粉乳やチーズ等の乳製品を製造してきたことから、これら乳製品の在庫が非常に多くなっています。もし、在庫量が乳業工場の保管能力を超えてしまうと、乳製品を製造することが出来なくなることから、乳業工場の生乳の受入に支障を生じるおそれもあります。こうした事態が生じないよう、4月21日にスタートしたプラスワンプロジェクトは「セカンドステージ」として、在庫が過剰となっている脱脂粉乳を使っている乳製品を中心に、アイスクリームは

1日1個、ヨーグルトやチーズは普段より1個多く消費いただくことを推進していきます。セカンドステージにおいても、農林水産省の職員がウシの着ぐるみを着て、皆様にプラスワンプロジェクトへのご協力をお願いするとともに、乳製品の消費を呼びかけています。

本誌をご覧の皆様におかれましては、是非脱脂粉乳等の乳製品を活用した魅力的な商品を積極的に開発・販売いただくとともに、乳製品を普段よりモ～(もう)1個食べていただき、日本の酪農を応援していただけますと幸いです。

《食べ過ぎにはご注意ください、無理のない範囲でご協力をお願いいたします。》



プラスワンプロジェクトの詳細は以下のURLにてご覧になれます。

○日本の牛乳を救う「プラスワンプロジェクト」緊急スタート！

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gyunyu/lin/plusone_project.html

○日本の酪農を応援する「プラスワンプロジェクト」セカンドステージへ！

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gyunyu/lin/plusone_project2nd.html